

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	吉野ヶ里町立東脊振小学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校目標の『かしくく』に通じる「学力の向上」は、小中連携による校内研究に取り組み、県調査の算数において、5年生は現状維持であったが6年生は目標を達成することができた。引き続き丁寧な指導により、児童の学力向上を図っていききたい。 ・学校目標の『やさしく』に通じる「心の教育」については、日々の細やかな生徒指導、いじめ防止の組織的対応をしっかりと行ってきたが、あいさつや児童が自分の夢を持ち、その実現に向けて取り組もうとする活動への取り組みが不十分であった。 ・学校目標の『たくましく』に通じる「健康・体づくり」は、悪くはないが足踏みしている感がある。中間アンケートの結果が不十分な点への積極的な働きかけが必要である。働き方改革は、新たな取り組みにより、ステップアップを図っていききたい。
---------------	---

2 学校教育目標	<p>夢に向かって 共にながらぶ児童の育成</p> <p>～かしくく やさしく たくましく～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①スキルタイムの工夫と児童の実態に合わせた授業づくり等により、児童の基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。</p> <p>②職員間の共通理解のもと、生徒指導事案の組織的対応により、落ち着いた学校をつくっていくとともに、児童が自分の夢や目標に向かって前向きに努力したいと思える教育活動を進めていく。</p> <p>③体育の時間の充実や休み時間の外遊びの奨励により、児童の体力アップを図ると共に、様々な体験活動や地域との交流を通して自分に自信をもち、チャレンジ精神と粘り強さ、郷土愛を育てる。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○基礎学力の定着と学習意欲の向上	○客観的データにより、漢字や計算スキルの向上がみられた児童80%以上 ○国語、算数の学習に前向きに取り組む児童80%以上	・スキルタイムの内容と方法の工夫 ・児童の実態に合わせた導入の工夫や話し合い等を取り入れた授業づくり	B	・単元テスト(1学期のまとめ)の知識・技能は国語64%、算数82%が標準点を上回った。 ・国語、算数の学習に前向きに取り組んでいる児童96%。(児童アンケート結果)	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達と仲良くできている」「良いこと、悪いことを考えながら生活している」と答える児童を90%以上	・年間3回の人権教室(集会)をはじめ、道徳や様々な教育活動の中で、児童の人権意識を高め、思いやりの心を育てる	A	・友達と仲良くできている児童95%、きまりを守って生活できている児童96%(児童アンケート結果)	A	・友達と仲良くできている児童97%、きまりを守って生活できている児童96%(児童アンケート結果)	A	・児童間のけんか等もあるようだが、互いにフォローし合っている様子もうかがえる。今後も互いが仲間であることを意識した取組の充実をお願いしたい。	人権・同和担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等について組織的対応ができている」と答える教師を90%以上	・児童の発達段階に応じた予防的開発的生徒指導に努め、毎月の「いい日アンケート」実施、毎週の職員連絡会での情報共有や協議等、全職員による組織的対応を行う。	A	・いじめ未然防止、早期発見、組織的対応に努めている職員100%(職員アンケート結果)。毎週の職員連絡会での情報共有や協議等を行っている。今後も継続して取り組みたい。	A	・いじめ未然防止、早期発見、組織的対応に努めている職員100%(職員アンケート結果)。毎週の職員連絡会での情報共有や協議等を行っている。今後も継続して取り組みたい。	A	・いじめの早期発見のため毎月のアンケートの実施や、職員間の共通理解を図る機会を設ける等の取組が職員アンケートに反映している。今後もいじめゼロを目指した努力を続けてほしい。	生徒指導部
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・毎月の「いい日アンケート」の結果をもとに担任が児童と面談を行う等、児童の思いや願いを聞く機会を作る。 ・クラスで自分の目標について考え、そのために何をどう頑張るのかを考え、振り返る機会を作る。	B	・先生は、あなたのよいところをわかってくれていると思う児童94%、自分の夢や目標をもっている児童83%(児童アンケート結果)自分の夢をもつ取り組みについては更に工夫して取り組みたい。	A	・先生は、あなたのよいところをわかってくれていると思う児童96%、自分の夢や目標をもっている児童89%(児童アンケート結果)中間評価よりやや向上しているが今後も取り組みを工夫していききたい。	A	・児童が目標をもち、達成に向かい努力することが大切で、達成の喜びを周りが認めてこそ、次の目標に向かい大きな志につながる。個性を生かせる教育を望む。職員が多くの子供達をみることはとても大変だと思うが、一人一人の特徴に目を向けて日々の活動に取り組んでいる。	教頭、各学年主任 (※各学年主任)
●健康・体づくり	○進んで元気なあいさつができる児童の育成	○「自分からあいさつができた」と答える児童90%以上を目指す。	・クラスや全校で「あいさつ名人」を紹介する機会等により、進んであいさつをしようとする意欲を高める。	A	・友達や先生、地域の人などに自分からあいさつしている児童91%(児童アンケート結果)あいさつ運動なども取り、あいさつをする児童が増えた。今後も、取り組みの継続と向上を	A	・友達や先生、地域の人などに自分からあいさつしている児童92%(児童アンケート結果)あいさつをする児童が増えた。今後も、取り組みを継続し、更なる向上を目指したい。	A	・あいさつはよくなってきた。地域でもあいさつをしている姿を見かける。来校時にもよくあいさつをしてくれる児童が増えた。	生徒指導部
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と答える児童70%以上 ○「毎朝、ご飯を食べて登校している」と答える児童が100%	・食育月間の実施、学級活動での食育推進、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行	B	・すききらいなく食事をしている児童77%、朝ご飯を毎日食べている児童93%(児童アンケート結果)朝ご飯の喫食を高める働きかけの工夫を行いたい。	B	・すききらいなく食事をしている児童86%、朝ご飯を毎日食べている児童92%(児童アンケート結果)次年度は、目標や取り組みの見直しを検討したい。	A	・好き嫌いなく食べることの指導は難しいが、楽しく給食を食べる雰囲気作りが大切である。教室に今日の献立を掲示するなどの工夫をしてあるところもあり、今後も継続してもらいたい。	保体部(食育)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○運動機会の確保と規則正しい生活習慣の確立	○「休み時間、元気に体を動かした」と答える児童70%以上 ○「早寝」「早起き」の児童の定着率70%以上	・運動の効果を伝え、外遊びを奨励する。 ・自分の生活習慣を見直し改善を促す学習活動の実施、保健だよりの発行	A	・休み時間に元気に体を動かしている児童74%、毎日早寝・早起きができている児童80%(児童アンケート結果)。休み時間に運動委員会による外遊び奨励の放送を行っている。今後も、取り組みの継続と向上を目指したい。	A	・休み時間に元気に体を動かしている児童82%、毎日早寝・早起きができている児童83%(児童アンケート結果)。中間より少しずつ向上している。今後も、取り組みを継続し、更なる向上を目指したい。	A	・休み時間になると、元気に外で遊んでいる児童を多く見かける。頑張ろう週間等を活用して今後も健康に気をつけてほしい。	保体部
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(時間外勤務の月平均を45時間以内にする。)	・退勤の目的を18時半とし、19時までの退勤の徹底を図る。 ・週に1回以上、「マイ定時退勤日」を設定し、実施に努める。	B	・4～10月の職員の時間外勤務時間の月平均は31時間34分だが、要注意45時間超の職員数の平均は7人。時間外勤務時間の削減を図る更なる取り組みが必要。	A	・4～12月の職員の時間外勤務時間の月平均は29時間51分、要注意45時間超の職員数の平均は2人。中間より更に改善されているが、要注意45時間超を0にする取り組みが必要。	A	・年度当初に比べると随分改善がみられる。会議のスリム化や定時退勤推進日の積極的な導入など今後も継続して取り組んでいきたい。	教頭
	○教職員の勤務状況の改善	○「勤務状況の改善が図れた」と答える教師を70%以上	・定期的に衛生委員会を開き、課題の洗い出しとその解決に努める。	B	・職員アンケートによる職場環境における肯定的評価は、1学期末69%、2学期末74%と少しずつ向上している。今後も取り組みを継続していききたい。	A	・職員アンケートによる職場環境の改善が図れていると思うは75%であった。今後も職員の声をもとに職場環境改善に取り組んでいきたい。	B	・職員同士の上でのコミュニケーション、他学年とのコミュニケーションをもう少し意識することで、それぞれの活動の目的の共有や問題の早期発見等につながると考える。	教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○郷土愛	○自然やふるさとを愛する児童の育成	○東脊振の良さを「低学年1つ以上、中学年3つ以上、高学年5つ以上」言える児童を80%以上	・生活科や社会科、総合的な学習の中学年3つ以上、地域を知る学習体験を行うことにより、地域の良さを知り、考える機会を作る。	C	・東脊振のよいところと言える児童(1・2年で地域を知る学習体験を行うことにより、地域の良さを知り、考える機会を作る。)	
○特別支援教育	○特別支援教育の充実	○特別の配慮を要する児童の理解が深まり、対応できることが増えたという教師90%以上	・児童理解の会による職員間の共通理解 ・特別支援教育に係る研修会の実施	A	・特別の配慮を要する児童の理解と対応でできることが増えた職員100%(職員アンケート結果)。研修会の実施や職員間の相談体制を整えるなど継続して取り組む。	A	・特別の配慮を要する児童の理解と対応でできることが増えた職員95%(職員アンケート結果)。研修会の実施や職員間の相談体制を整えるなど継続して取り組む。	A	・職員が子供達の成長を辛抱強く見守りながら、日々の学習活動に取り組んでいる。年間を通してみると子供達の成長を感じることができた。	特別支援教育コーディネーター

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・今年度、スキルタイムを週2回にし、内容の充実を図った点は非常に高く、児童が音読や計算に熱心に取り組む姿勢は高く評価できる。同時並行で授業づくりにも取り組んだ。年3回の全校授業研では、話し合い活動の工夫を行い、児童の主体性、思考力、表現力を高める取組を行った。今年度の校内研究の成果と課題を踏まえ、今後も、学力向上の取組の更なる充実を図っていききたい。</p> <p>・昨年度後半から学校全体の落ち着いた雰囲気は継続している。コロナの状況も落ち着いたまま、様々な教育活動も制限なく行うことが可能となった。中でも毎月の生活朝会は、全校児童が体育館に一同に会し、担当教員から生活の話を直接聞く機会である。時には寸劇やクイズ等の工夫をしながらいじめ防止の心に残る指導を心掛けてきた。その結果、元気にあいさつをしてくれる児童も随分と増え、明るい学校となっている。</p> <p>・今後も、縦割り活動や総合的な学習等の中で、様々な体験活動や地域との交流活動にも積極的に取り組みながら、児童の豊かな人間性とともに郷土愛を育んでいけるような教育活動を工夫していききたい。</p>
----------------	---